

## 固体地球科学セクションボードミーティング

5月25日(木) 12時30分～13時30分@101室

出席者：18名

大谷栄治(プレジデント), 田中聡(副プレジデント), 道林克禎(幹事), 池田剛(九州大), 中村美千彦(東北大), 吉田茂生(九州大), 大久保修平(東大), 田所敬一(名大), 森下知晃(金沢大), 歌田久司(東大), 鍵裕之(東大), 片山郁夫(広島大), 木村純一(JAMSTEC), M.Satish-Kumor(新潟大), 唐戸俊一郎(Yale Univ), 成瀬元(京大), サイモン・ウォリス(名大)

### 議題

#### 報告事項

#### 1. フォーカスグループの活動報告(田中)、準備状況

田中さん 地球内部科学 昨年度の活動 JpGU2017 セッションの提案(AGU と共同)  
今年度の活動 来年度国際シンポジウムの開催準備

フォーカスグループの内部構造を充実したい 何か準備または関連したこと  
掘削科学フォーカスグループ(道林) 3年後に国際ワークショップを目指す

フォーカスグループをどうするか? 田中さん

具体的に明確化したいので議論に参加できる方, 募集中です!

AGU との共同活動の窓口として期待されている

分野横断的なグループを準備した方が良い

表層(near surface) @AGU は JpGU では? → 人間圏?

Earth Surface process focus group 地質, 地形, 防災(日本だと人間圏と固体地球に分かれる?)

そのほかについて後ほどメールで議論していただく予定です

大きな固体地球セクションですが, はみでてしまうこともあるかも. 場合によってははみ出して考えてもいいかもしれない. そちらが適当かもしれない(大谷さん)

フォーカスグループとして固定化しない, タイムリーなものがないかもしれない.

それぞれが使い勝手がよいものなど, 様々なケースが考えられるのではないかと.

作っても負担にならない, また研究活動に実益をもつようなグループにしたい(大谷)

#### 2. 今後の関連国際会議について, セクションの後援について.

XXXIV International conference on Magmatism of the Earth and related strategic metal deposits, Mias, Russia 8/4-9

Goldschmidt conference, Paris 8/13-18

Airapt meeting, Beijing 8/20-23

HPMPS, Mont Malo, France 9/24-29

IAVCEI

AOGS, Singapore 8/6-11

AGU New Orleans 12/11-15

特に後援していない。

国際会議があれば情報を教えてください（幹事）

早めに連絡をもらえば後援可能，予算措置もありうる（1年前ならやりやすい）

後日、情報を追加

IAG-IASPEI2017（測地学と地震学合同）、神戸 7/30-8/4

IAGA(IAPSO-IAMAS-IAGA2017)ケープタウン

### 3. 2017 Joint meeting の現状：

255 セッション/国際セッション 153

固体地球 75 セッション/国際セッション 49 セッション

（2016 の固体の英語セッションは 19）

Joint Meeting の効果

プログラムの重複をできるだけ避けてほしい 似たようなセッションがほぼ同じ日程になって集中してしまった 改善してほしい→プログラム委員に連絡

セッションとしてまとめて提案したらどうか？

4. 定款の変更：団体会員を廃止、選出の代議員のみとする。学協会長会議に幹事会を設ける。団体会員の代表は、一般社団法人になじまないと内閣府からの指摘。

5. 今後の連合大会の予定；2018 年以降ジョイントセッション、AOGS,台湾とのジョイント。2020 年横浜大会（30 周年）を第 2 回 AGU とのジョイントを議論している。

2020 年横浜大会 予算次第でたぶんポスター発表を増やす必要がある（ウォリス・サイモ

ン)

## 6. その他

事務局はビザの手続きで苦勞している 1000人以上の海外からの参加者への対応が大変 締め切り間際や締め切りに間に合わないケースもあった 200万円ちかい予算を使ったにもかかわらず、海外からの参加者への対応を良くする必要があるのではないか。(ウォリス・サイモン) このようなビザの請負などは不要なのではないか(唐戸) 通常の国際会議ではそれほど手間をかけていないのではないか、という意見もあった。

### 審議事項

#### 1. セクションボードメンバーの拡充・強化について：

##### 学生発表賞、高校生ポスター審査、セクションの褒章の審査委員

学生発表賞の審査員は最後に間に合いました(成瀬さん)

学生賞のエントリーが増えている 400名くらいが限界？

セッションのコンビーナーの学生だけの場合はセッション内で審査するのは難しい

#### 2. 学生発表賞の選考委員について。地球人間圏セクションからの要望(審査委員数の割り振り)。セクション縦割りでないほうがよい？

連絡会希望？個人的に依頼すればセクションに関係なく応じてくれることが多い

審査可能な発表を見つけやすいシステムの構築がよいのでは？システム改善中ではあるがまだバグがある。検索機能の強化。審査員登録の際に、セクションによる区分を外すのがよいのではないとの意見あり。

**固体地球セクションボードのメンバーが、他のセッションの内容でも審査を引き受けて良いこととする(本会議の合意事項)**

#### 3. ハイライト論文の選定法について。自己推薦はのぞましくない。

理事会でも議論している。コンビーナーにもみてもらうなどの事前チェックが必要ではないか？

#### 4. 高校生のポスター評価委員について。

今年度のセクションボードからの推薦方式はうまくいったので、次年度も同様に依頼したい(道林) 審査件数は2~3件程度が良さそう。そのためにはもう少し審査員の人数を増やす必要かもしれない(ミーティングの後の執行部の意見)

5. **セッションの内部構造について。**

どのような内部構造を作るべきか。検討委員にお願いしたい。  
固定化しない枠組み。新たなフォーカスグループについて。

セッション間のリエゾンを期待する

例 Geochemistry 固体, 宇宙, 海洋大気などを含む

セッションの役割 Joint Meeting の窓口を担う？

**AGU のフォーカスグループは怎么样了なっているか？**

現状報告 田中さん

定義 Interdisciplinary の役割 セクションと同じ役割もあるようだ

セッションボードの複数のメンバーで構成してもいいかも

6. **セッションの褒章制度についての問題点。**

作った方がいい (数年前から提案) 選考するシステムの構築が問題 (多忙など) 学会  
と協力したいが簡単ではない 選考をどうするかどうかが唯一の問題

受賞者選定の信頼性の保証をどうするか？

審査委員をどのようにするか？ → 代議員まで？

7. **英語版ホームページの充実について。**

JpGU で変更があるので, それをふまえて検討する.

8. **2017 年 joint meeting の評価、改善点。**

セッションのプログラムについて, 定番セッション優先になってトピックセッションを出  
しにくいのではないかと? → プログラム委員に連絡

英語セッションを優先すべきではないかと?

部屋割り, 部屋の交換など柔軟にできないかと?

9. **西田賞、フェロー推薦の活性化について。**

西田賞 固体地球からの推薦が少ないことを改善したい. その役割を担う?

AGU のように, セクションは分野をプロモートする役割を担うので賞を推薦してもいいの  
ではないかと?

西田賞 候補者は推薦されないと困る 現状は少ないので問題である 個人的な依頼くら  
いしかできない 日本はまだ推薦する文化が少ない Geochemical Society では推薦人を探

す委員会がある（大谷さんの経験談） 推薦してくれる方を見つける活動が必要なのではないか？ 自薦を受け付ける賞も珍しい フェローも同じ状況 メールで議論する